

民生・家庭部門 6-2						
削減手段	家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの導入（戸建住宅）					
内容・算出根拠	<p>戸建住宅において 1kW 燃料電池システムにより家庭内の給湯需要の 8 割をまかないその分の電力消費を削減</p> <p>給湯需要：10,907MJ（「福生市地域新エネルギービジョン」の家庭エネルギー消費量のうち、約 3 割が給湯需要だとして推計）</p> <p>ガス給湯器の利用効率：80%</p> <p>燃料電池システムの出力：発電 1kW（効率 35%）、熱 1.3kW（効率 45%）</p> <p>ガス消費増加分：6,787MJ</p> <p>電力消費削減分：1,508kWh</p> <p>LPガスの CO<sub>2</sub> 排出係数：0.0586 kg -CO<sub>2</sub>/MJ</p> <p>都市ガスの CO<sub>2</sub> 排出係数：0.0513 kg -CO<sub>2</sub>/MJ</p> <p>電力の CO<sub>2</sub> 排出係数：0.378 kg -CO<sub>2</sub>/kWh</p> <p>ただし燃料電池コージェネレーションは 2010 年以降普及が始まり、次第にガスエンジンコージェネレーションを置き換えていくものと想定する。</p>					
削減量単位	LPガスの場合：0.17 t-CO <sub>2</sub> /戸・年、都市ガスの場合：0.22 t-CO <sub>2</sub> /戸・年					
導入コスト	現状ではモニター導入					
CO <sub>2</sub> 削減コスト	不明					
対象	一戸建て住宅（ただし、太陽熱利用システムを導入していない）					
目標	2010	全戸の 0%	2020	全戸の 5%	2030	全戸の 10%
戸数		0 戸		385 戸		613 戸
CO <sub>2</sub> 削減量		0 t-CO <sub>2</sub>		72 t-CO <sub>2</sub>		118 t-CO <sub>2</sub>